東大校友会ニュース

September 2016

U Tokyo Alumni Association News

no. 31

contents

2 東京大学校友会役員会報告・新会長挨拶

4 第15回東京大学ホームカミングデイのお知らせ

6 特集 社会課題に挑戦する「行動する卒業生たち」

12 同窓会だより 同窓会活動・設立レポート

14 東京大学ビジョン2020と卒業生活動

東京大学コミュニティ誌

東京大学 校友会役員会を開催

東京大学校友会は 2016 年 7 月 1 日、本郷キャンパス本部棟 12 階大会議室において、役員等 27 名が出席し、神澤俊介事務局長の司会のもと役員会を開催しました。張富士夫会長より、本日を以て会長を退任し、新しい会長として大塚陸毅副会長にお願いしたいとの提案があり、役員会もこれを了承しました。古谷研副会長による活動報告の後、東大校友会ニュース等への有料広告掲載について審議、承認されました。

「東京大学ビジョン2020」の実現を全面的に支援

張富士夫校友会会長

東京大学校友会は、「グレーター東大コミュニティ」の会員組織体として、近年その基盤が飛躍的に充実してまいりました。登録団体数は280団体を超え、オンラインコミュニティ（TFT）の会員は3万9千人に達しております。基盤充実に伴い、国内外の卒業生団体や卒業生個人による、大学や在学生に対する貢献も、年を追って拡充しております。東京大学は昨年就任された五神総長の下で、新たな行動指針「東京大学ビジョン2020」を策定公表し、「知の協創の世界拠点」としての使命を担うべく、改革を進めておられます。東大校友会と致しましても、組織・活動の基盤をさらに拡充し、ビジョンの実現を全面的に支援致したいと存じます。本日を以て会長を退任させていただくことになりましたが、役員の皆様には、長年、会長の私にご支援ご協力を賜り、心から御礼申し上げます。本日よりは、大塚新会長にご協力いただき校友会と母校東京大学とを力強くご支援下さいますようお願い致します。

五神真総長

まずは8年以上の長きにわたって会長を務めていただいた張富士夫会長に心より御礼申し上げます。大塚新会長には大変ご多忙の中、校友会会長をお引き受けいただいたこと、心より感謝致します。私が総長になった昨年4月以降の出来事として、10月に梶田先生がノーベル物理学賞を受賞されました。梶田先生にはホームカミングデイで急遽ご登壇いただいて卒業生の皆さんにも大変喜んでいただきました。そういう活動をどう持続させるか、大きな責任を実感した次第であります。何よりも活動を支えるのは人でありますので、そのような人材「知のプロフェッショナル」をどう育てるかが極めて重要であると思います。

入学式の式辞では、今何を伝えなければならないかを吟味する中で、東大の140年に及ぶ学術の活動をいろいろな角度から紹介することを心掛けております。新聞では東大総長が入学生に向かって新聞を毎日読みましょうと言ったと伝えられました。これは伝えたかったことのごく一部で、そのフレーズの直後で海外のメディアにも常時目を配って日本の相対的位置を実感できるよう努力してほしいと伝えました。1990年頃と較べると日本の情報が海外の主要メディアには出なくなった。そういう立ち位置の変化は、日本で普通に暮らして、日本の新聞を読み、テレビを見ているだけだとわからない、東大生にはそういうことでは困るということを伝えたかったということがあります。

「卒業生とともに社会を変えていく活動をするような大学に」

6年間の任期で何をするかということを「東大ビジョン2020」という形でまとめ、ホームカミングデイの時に紹介をさせていただきました。ホームカミングデイでは20年から45年の周年のグループがあります。卒業生とともに社会を変えていく活動をするような大学になりたいという話をしたときに、周年の中で一番反応が良くて終わった後で私の周りに人垣が出来たのは20周年、40代の半ばくらいの人たちです。失われた20年を社会の中で過ごしてきた彼らの心に、大学がこれから社会を変えていく共に活動する場になるという私からのメッセージが伝わったのではないかと思っています。校友会の活動をもりたてていくべきということを実感いたしました。校友会の活動は東京大学ビジョンを実現するうえで要になります。

「校友会活動は『東京大学ビジョン2020』実現の要」

最近の話では2020年のオリンピック、パラリンピックに向けて、スポーツ科学の分野から東京大学に協力してほしいとの要請がきております。スポーツ先端科学の研究拠点を5月に発足させ、6月4日に駒場でシンポジウムを開催しました。社会を良くするため科学・学術をどう使うかという中で、身体科学に注目したスポーツ科学は良い社会のベースであります。健康長寿につながる社会システムを提案するなど新しい動きとして期待しているところです。今までとは違った形で、社会の様々な方々に東京大学の活動を理解していただくきっかけがつかめてきたと思っております。それを実際に拡げるためにはOBネットワークはきわめて重要です。

本日より東大校友会は大塚新会長のもとで新たな展開、発展のスタートを切ることになりましたが、役員の皆様方におかれましては引き続き東京大学および東京大学校友会の活動に対して積極的なご協力ご助言をいただきますよう心からお願いいたします。

広告掲載等に関するお問い合わせ
卒業生室
tft.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
詳細はこちら
http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/public/index.html

東京大学校友会会長就任に当たって

大塚 陸毅 おおつかむつたけ　東日本旅客鉄道株式会社相談役

私は、本年7月1日の東京大学校友会役員会で四代目の会長を仰せつかりました。8年半の長きにわたり会長をお務め頂いた張富士夫会長（トヨタ自動車名誉会長）の後任として、身の引き締まる思いがいたしますが、ご指名を頂きましたので、母校と卒業生の皆様の為に微力を尽くして参りたいと存じます。

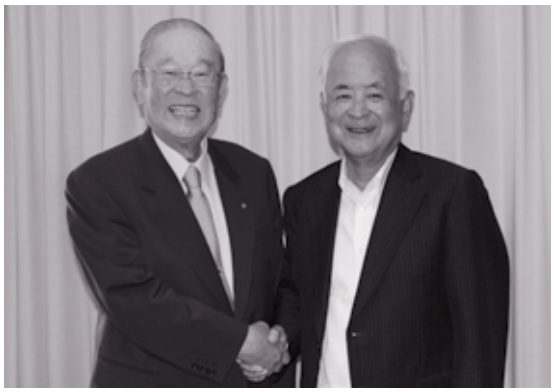
まず、張会長におかれましては、これまでの間、校友会の基盤拡充・発展にご尽力頂きました。心から御礼を申し上げます。張会長ご就任当時の東京大学校友会（当時は東京大学学友会）の登録団体数は97団体と、まだ二桁でありましたが、7月1日現在で286団体と、3倍の規模に拡大しております。また、10年前の2006年7月にスタートした東京大学の公式オンラインコミュニティ（TFT）も、今や、個人登録数が4万人目前であります。さらに、最大の卒業生イベントである10月のホームカミングデイも、年を追って賑わいを増しております。東京大学校友会の会則上、役員会と並ぶ会議である代議員会は、2013年以来、ホームカミングデイ当日に開催することが恒例となり、登録団体の代表の方々に、校友会や卒業生室の活動に関するご理解を深めて頂いております。

東京大学校友会の基盤充実に伴い、内外の卒業生団体や卒業生個人による大学や在学生に対する貢献も、年を追って内容が拡充しております。具体的には、体験活動プログラムの企画提案、知の創造的摩擦プロジェクトの定例開催、留学生との交流、在学生の為の進路ガイダンスや就職面接の指導等、様々な分野に及んでおります。

さて、このように組織基盤や活動内容が大変充実してきている中で、東京大学校友会の今後を展望致しますと、まずは昨年就任された五神総長の下で策定公表された新たな行動指針「東京大学ビジョン2020」の実現をサポートしていくことは言うまでもありません。このビジョンに基づき、五神執行部は現在、「知の協創の世界拠点」としての使命を担うべく、東京大学の改革を進めておられますが、東京大学校友会と致しましても、組織・活動の基盤をさらに拡充し、五神執行部の改革を全面的に支援してまいりたいと存じます。

しかしながら一方で、東京大学を始め国立大学の財政状況は、年々厳しさを増しております。東京大学校友会は2004年の発足以来12年間、大学予算によって運営されてきましたが、今や、独自財源の開発が喫緊の課題となっております。本年7月1日に開催された東京大学校友会役員会では、東大校友会ニュース等への有料広告掲載が審議了承されました。この結果、本号から広告の掲載が実現しておりますし、本年10月15日に開催される第15回東京大学ホームカミングデイのパンフレットにも、様々な広告が掲載される予定です。今後は、広く寄附金・協賛金や会費を集めることも検討し、東京大学校友会会員の皆様のご理解ご協力を頂きながら財源のさらなる多様化を図っていく必要があると考えております。

いずれにしましても、より多くの本学卒業生が広く、親しく交流すると共に、大学や在学生に対して積極的に貢献する気運、文化を醸成・確立していくことが最も重要であり、東京大学校友会の最大の使命でもあります。東京大学校友会会員の皆様におかれましては、東京大学校友会と母校東京大学に対し、引き続き強力なご支援ご協力を賜れば幸甚に存じます。



昭和40年
法学部卒業後、国鉄入社。
平成12年6月
東日本旅客鉄道（株）
代表取締役社長。
平成18年4月
同社　取締役会長。
平成24年4月
同社　相談役。
平成16年10月
東京大学学友会（現東京大学校友会）
発足時より副会長。
平成28年7月
東京大学校友会会長。

Panelist

石川正俊
Masatoshi Ishikawa
東京大学
情報理工学系研究科長・
同創造情報学専攻教授

1977年東京大学工学部計数工学科卒。79年大学院工学系研究科計数工学専門課程修了。大学院工学系研究科教授、情報理工学系研究科教授、産学連携本部長、東京大学理事・副学長等を歴任。専門分野はシステム情報学（センサ工学, ロボット工学, 画像処理, 認識行動システム, 生体情報処理）。

島田啓一郎
Keiichiro Shimada
ソニー（株）
執行役員、
中長期技術・技術渉外担当。

1981年東京大学工学部電子工学科卒。ソニーに入社後、ビデオ・カメラ・オーディオ・パソコンの技術・商品開発・事業を担当。技術開発本部長、研究開発担当役員を経て現職。総務省イノベーション創出委員会等の構成員を歴任、電子情報技術産業協会技術戦略委員長、京都大学経営管理大学院特命教授。

新宅純二郎
Junjiro Shintaku
東京大学大学院
経済学研究科教授

1982年東京大学経済学部経営学科卒。86年東京大学大学院経済学研究科修了。93東京大学経済学博士取得。96年東京大学大学院経済学研究科助教授、准教授を経て12年より現職。専門分野は経営戦略。東京大学ものづくり経営研究センターを運営。

谷家 衛
Mamoru Taniya
あすかホールディングス株式会社
取締役会長

1987年東京大学法学部卒。ソロモン・ブラザーズ、チューダー・キャピタル・ジャパンを経て、同社のMBOにより、あすかアセットマネジメントを設立、同社CEO。オンライン生命保険（ライフネット生命）の立ち上げ。日本初のインターナショナルボーディングスクール（ISAK）を着想し、発起人代表として学校を開設。

菅 裕明
Hiroaki Suga
東京大学大学院
理学系研究科教授

1994年マサチューセッツ工科大学Ph.D。マサチューセッツ総合病院・ハーバード大学医学部博士研究員、ニューヨーク州立バッファロー大学Tenured Associate Professor、東京大学先端科学技術研究センター教授を、10年より現職。専門分野は、ケミカルバイオテクノロジー。06年ペプチドリーム社創業・社外取締役。

Moderator

桝 太一
Taichi Masu
日本テレビ放送網（株）編成局
アナウンス部所属。

2004年東京大学農学部水圏生物科学専修卒。06年東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻修了。同年日本テレビ入社。「ZIP!」「全国高等学校クイズ選手権」「所さんの目がテン!」等に出演中。

第15回 東京大学

東京大学は2017年に140周年を迎えます。
今年はその記念すべき前年の重要な年であり、
次代に向けたプログラムも数多く企画しています。
ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、
ぜひご来場ください。
未来に向けて一緒に母校を盛り立てましょう。

※詳細プログラムは随時更新しています。会費を記載していないイベントは無料。

特別フォーラム

安田講堂
10:50〜12:45

「知」がひらく
〜 新たな価値創造への挑戦

グローバル化の進展による産業・経済の構造変化の中で、イノベーションを通した新たな価値創造への期待が高まっています。知識が経済の基盤となる社会において、大学の知はイノベーションとどのように関わるのかが問われています。「東京大学ビジョン2020」では、新たな価値創造に挑戦する「知のプロフェッショナル」の育成とともに、社会や産業との緊密な連携・協働を通して学術成果を社会に還元していくことを目指すとしております。

産業界においてはオープンイノベーションの認識のもと、内外のリソースを組み合わせ融合することにより、新たな事業を創出する取り組みがなされています。AIやバイオサイエンスなどの先端知識とともに、新しい価値を発見し事業のフレームを創る力が問われています。

大学の知と産業界を架橋し「知の協創のプラットフォーム」をいかに築いていくか。ものづくり力や成長するアジアに立地する日本の強みも生かしながら価値創造を実現するエコシステムをいかに創っていくか。自らイノベーションのフロントに深くコミットする方々をパネリストに迎え、多面的な視点から意見交換を行います。

飲食・エンタメ系

東大蔵元会
11：00〜16：00

東大にゆかりのある10の蔵元が銀杏並木に出店。選りすぐりの日本酒を一杯100円からご用意します。日本酒の造り手が、日本酒好きの皆様をお待ちしています。
出店：鷲の尾、新政、出羽桜、金水晶、大七、ほまれ麒麟、惣譽、御園竹、長龍、喜多屋

学士会館ビア屋台
11：00〜16：00

あつあつの焼き鳥と生ビールの最強コンビで皆様をお迎えします。

東大落語寄席
11：00〜17：30

東大落語研究会OBによる落語口演です。おなじみの滑稽噺から、ほろりとする人情噺まで、日ごろの精進の成果をご披露いたします。

台湾茶を楽しむ会
13：00〜17：00

台湾校友会主催。台湾茶と台湾菓子を無料で提供します。

安田講堂音楽祭
14：00〜16：15

東京大学の音楽系サークルOB・OGと現役学生による演奏会です。最後に、東京大学の歌「大空と」「ただ一つ」を一緒に歌いましょう。音楽部コールアカデミーOB会、柏葉会同窓会合唱団、音楽部コーロ・レティツィアOG会、音楽部管弦楽団（在学生）、東大オケとも会

最高のオペラを身近に
17：30〜18：30

米国西海岸屈指のテノール、デイヴィッド・グスタフソンと日米を股にかけるソプラノ、下崎響子によるオペラリサイタルです。

選抜学生コンサート　※駒場キャンパス
14：00〜16：00

オーディションにより選抜された学生たちのコンサートです。駒場キャンパスの音楽活動の軸となるイベントのひとつです。

ホームカミングデイ 10月15日(土)開催します

講演会・シンポジウム

Global Business Leaders Summit 2016＆レセプション

14：00〜18：00／18：30〜21：00

ビジネス界の最前線でご活躍されている経営者をパネリストとしてお招きし、「ここでしか聞けない話」を含め、グローバルなビジネスの今後をアクティブにディスカッションします。会費あり。

「2016年熊本地震は想定外だったのだろうか？」

11：00〜12：00

講演：酒井 慎一准教授

地震予知の研究者が、専門の立場から語ります。

「深層学習をとりまく技術的展望」

15：30〜17：00

知ってるつもりの人工知能の真の姿を知り、シンギュラリティの先の人類の未来や我々の仕事に及ぼす影響を考察し、対処を探ります。

「神々・聖者・死者たち —アジアの祭りと死者儀礼」

15：00〜16：30

祭りは、多くの地域で民衆の宗教の中心にあって、最大の楽しみであると同時に、しばしば共同体の存続に関わる政治的行事でもあります。南インドのケララと北タイの祭りを中心に、人間社会で祭りが担ってきた役割についてご紹介します。

ワークショップ

東大のびのび広場2016

10：00〜17：00

親子連れ卒業生の憩いの場・交流の場の提供。プレイマットコーナー、お絵かきコーナー等、赤ちゃんから小学生まで楽しめます。※お子様のみの利用はできません。

東大ママ門交流会

11：00〜12：30

子育て中のママが参加し、育休復帰後の悩み、習い事、受験などさまざまな育児に関わる悩みを共有し、情報交換し合うことでその解消につなげてもらいます。妊娠中の女性、今後妊娠を考えている女性も参加可能です。

国際機関銀杏会公開ワークショップ

14：00〜15：30

基調講演：国連UNHCR協会滝沢三郎理事長らによる基調講演と、国際機関を目指す学生たちを交えたパネルディスカッション。

その他お楽しみ企画

銀杏並木フェスタ

11：00〜16：00

いつもは静かな銀杏並木が賑やかなフェスタ会場に変わります。模擬店、OBによるバンド演奏、パフォーマンスステージをお楽しみください。協賛ドリンクの無料配布所も設置しています。※配布飲料がなくなり次第、コーナー終了。提供：KIRIN

懐徳館庭園

11：00〜15：30（入園は15：00まで）

2015年3月、国の名勝に指定。旧加賀藩主前田氏本郷本邸に起源を持つ庭園で建物は東京大空襲の被害を受け全焼し、その後再建されました。庭園は作庭当時の風景を現代に継承しています。普段は非公開ですが、ホームカミングデイ当日のみ一般公開します。

キャンパスツアー

10：00〜15：00

現役学生が本郷キャンパス内をご案内します。変わることのない赤門、三四郎などの名所、歴史的建造物、最新施設をご案内する約60分のコースです。30分おきに出発。

サッカーフェスティバル@御殿下グラウンド

9：00〜17：15

少年少女を主な対象とした御殿下サッカースクール、学生の練習、20代から80代まで多年層にわたる試合を行います。ちびっこ参加者募集中。

古本を持って東大へ行こう！

11：00〜16：00

ISBNコードが入っていればOKです。読み終えた本で大学を支援してください。※領収書の発行はできません。

大同窓会・周年学年会

今年は最大6つの年次が本郷キャンパスに集います。学生時代に戻って旧交を温めてください。ビジネスや居住エリアなどから意外に近い関係を知り、新たな交流が生まれるかもしれません。※webサイトで参加申し込み受付中。当日参加できない方もメッセージが書き込めます。

20周年学年会

1992年入学もしくは96年卒（医/獣医は98年卒）
時間　13:00〜15:00
場所　山上会館1F/談話ホール（ハーモニー）

25周年学年会

1987年入学もしくは91年卒（医/獣医は93年卒）
時間　13:15〜15:15
場所　山上会館B1/食堂（御殿）

30周年学年会

1982年入学もしくは86年卒（医/獣医は88年卒）
時間　15:30〜17:30
場所　生協中央食堂

35周年学年会

1977年入学もしくは81年卒（医/獣医は83年卒）
場所　12：00〜14：00
場所　伊藤国際学術研究センター　多目的スペース

40周年学年会

1972年入学もしくは76年卒（医/獣医は78年卒）
時間　16:45〜18:45
場所　山上会館B1/食堂（御殿）

45周年学年会

1967年入学もしくは71年卒（医/獣医は73年卒）
時間　17 :00〜19:00
場所　山上会館1F/談話ホール（ハーモニー）

東大HCD　2016　検索

※学部・研究科の講演会、シンポジウム等詳細はホームページをごらんください。

社会課題に挑戦する

行動する卒業生たち

「世界の公共性に奉仕する大学」東京大学憲章の前文で最初に謳われている言葉です。
東京大学140年の歴史は、それぞれの時代の社会課題に挑戦した多くの先達がいます。
貧困問題、地域の再生、少子高齢化、新しい医療の形、被災地の復興と仕事の創出…。
今日の社会課題の現場で「新しい公共性」の創造に取り組む卒業生からのメッセージです。

「見えないことは無視につながり、関心は尊重につながる」

学生時代の「財産」

大学に行かない大学生だった。

授業に出たのは年に数回。学外のボランティア活動に明け暮れていた。

同じような年齢と学力の人たちに囲まれているのが、なんとなく性に合わず、年齢も性別も学歴も雑多なボランティア仲間といるのが楽しかった。

当時、児童養護施設の学習ボランティアで生意気な私の面倒を見てくれたのは、プロボクサーあがりのおじさんだった。彼はその後郷里の熊本に帰って私塾を開いており、今回の震災で被災したが、私のゼミ生が被災地ボランティアに行きたいと言ったとき、一部損壊した自宅に泊めてくれた。そんなつながりが、学生時代の「財産」だった。

「見られる側」の体験

なぜ、そんな若者になったかは、よくわからない。おそらく、兄が障害者であることが影響しているだろう。小さいころ、兄の車イスを押して外を歩くと、よくジロジロ見られた。

「見られる側」の立場を、私はそこで経験した。

また、兄のために我が家には頻繁にボランティアの人たちが出入りしていた。

私もよく遊んでもらった。

兄のおかげで、家庭と学校だけでない人間関係になじんでいたこと、兄のおかげで自分一人では到底経験することのなかった「見られる側」を経験したこと、それが多様な人たちとの関係をおもしろがる私の根っこを形成したのではないか、と今は思っている。

大学院で鍛えてもらった

その延長線上にホームレス支援があった。

私が歩んできた人生とまったく異なる人生、そこにある山と谷、それによって作られた性格や文化、そこに触れるのが楽しく、路上でよく飲み、よく泊まった。

路上でのホームレス支援の時期は1995年から2002年。私の大学院時代と重なっている。

今の私の物事を捉える目、考え方、世界観は、この時期に形成された。路上からこの世の中がどう見えるか、それを訴えてきた。そして訴えるための思考力、文章力は大学院で鍛えてもらった。

どちらが欠けていても、今の私はいなかっただろう。

便利屋を起業

それからの10年はめまぐるしかった。2003年、博士論文を書けないまま大学院を退学した私は、ホームレスの人たちと便利屋を起業した。

いま流行りの同一労働同一賃金を掲げ、一現場一人工6000円で仕事をとってきた。

慣れない2tトラックを運転し、誰にも看取られずに亡くなった部屋の片づけをした。半年前の牛乳、食べかけの弁当、腰まで埋まるゴミ屋敷、大量発生したゴキブリ…ありとあらゆるものを片づけた。遺体の第一発見者になったこともあった。

まだ、社会的起業家という言葉も、遺品整理という言葉も流通していなかった時代だ。

消された人たち

2006年、新聞紙上で竹中平蔵氏が「日本に貧困問題はない」と言うのを見た。

便利屋と並行して行っていた相談活動では、入れ替わり立ち代わり食べていけなくなった人が来ていた。

もはやホームレスだけではなく、家のある人の生活が立ち行かなくなってきていた。

便利屋でホームレスの人たちと一緒に仕事をし、仕事先は孤独死した人たちの部屋で、合間を縫って生活困窮者の相談を受け、お宅を訪問していた当時の私は、24時間「貧困」に囲まれていた。

それが「ない」ものとされた。ふだん接している人たちがパッと消されたような感覚に襲わ

れた。

道端で書いた論文

黙ってはいられない。

それからは毎日、一時間前に現場に着き、仕事が始まるまでの時間を執筆にあてた。

現場の多くは、住宅街の中の古いアパートだったから、喫茶店などもない。路肩に腰かけ、缶コーヒーを飲みながら、パソコンに向かった。暑い夏だった。

ツテもないのに論文を送りつけた月刊誌が幸いに掲載してくれ、それ以降は取材が殺到した。

喜びと戸惑いの中で、無我夢中だった。

気づいたら、リーマンショック後に日比谷公園に開設した派遣村の村長にかつぎあげられ、官邸や国会に呼ばれ、内閣府参与に就任した。

官僚とホームレス

付き合う人たちが、いきなりホームレスから官僚と政治家に変わった。

最初は疑心暗鬼だったが、徐々にこの人たちにもそれぞれの思いと考え、文化のあることを学んでいった。

その過程は、ホームレスの人たちとの付き合いで学んだことと変わらない。

「見えないことは無視につながり、関心は尊重につながる」――私の座右の銘である。ニューヨークタイムスのグリーンハウスという記者の言葉だ。

官僚の人たちが反対するのも、やりたくないからではなく、何か懸念する理由があるからだ。それを理解し、その立場と自分の立場を重ね合わせて、解決策を模索する。それができれば、向き合う対決型からともに探す共同探求型に関係を転換できる。

それは、ホームレスの人たちが「おれはこの暮らしでいい」「アパートになんか住みたくない」と言うのを聞くとき、そう言いたくなる気持ちを理解しようとする作業と変わらない。そうして初めて、ホームレスの人たちも私たちの言うことに耳を傾けてくれた。

仲間内から飛び出す必要

内閣府参与の3年間は、私のそうした考えをより自覚させ、より固めた3年間だった。

それには、挫折の経験も大きい。

3年間、政策をつくり、予算を獲得したが、できたことはやりたいことの1～2割だった。私には、さまざまな人たちのさまざまな懸念を解消する力が足りなかった。ともすると、それを「無理解」で片づけるフシがあった。

「日本に貧困はない」と言われてカッとなったときに比べれば、状況は好転していた。

しかしそれでも、理解を得るためにはまだもっと遠くに言葉を届かせなければならなかった。

私はその言葉を持っていなかった。

仲間内から飛び出す必要がある、と痛感した。

新しい服に袖を通すように

参与を辞めた2012年からの3年間、私がもっとも力を注いだのが異業種交流だった。

苦手なところにこそ出向いていった。

気後れする人とこそ積極的に会うことにした。

「新しい服に袖を通すように」とある人はアドバイスしてくれた。着たことのない服を身にまとうように、馴染みのない関係や考え方に自分をくぐらせ、より多くの視点を身につけ、自分の視点を多角化する。

ある政治家は、私に「大企業の社長も一票、たばこ屋のおばちゃんも一票」と言った。政治家はそこをくぐり、より多くの人に届く言葉を身につけていっている。

政治家でなくても、世の中に働きかけようと思うなら、そうしたどぶ板的態度が必要だと思った。それは政治家特有のものであってはいけない。民主主義社会におけるすべての主権者のあり方だろう、と。

フィールドワークとしての教授職

すべての立場の人たちに関心を持ち、そこからの世の中の見え方を尊重し、「ある視角」として自分の中に位置づける。それを一生積み重ねていけば、私は自分の中にあらゆる視角をもち、真に多角的な検討をできる人間になる。

「信じられない」「理解できない」と切り捨てることの真逆を行くこと、ホームレスから総理大臣まで等しく付き合うこと、「理解できない」という反応に出会ったときこそ自分の視野を広げるチャンスだと思うこと。――それが私の信条となった。

いま大学に籍を置いているのも、その延長線上にある。

社会問題などに触れたことも関心を寄せたこともない「ふつう」の学生たちに、どう言えば耳を傾けてもらえるか。日々が挑戦と試行錯誤の連続だ。

学生たちには「悪いが、君たちより私の方がはるかに『学んで』いるよ」と話している。

私の生きる道

そして今年7月から、私はこの間の成果を問う力試しを始めている。

「ヤフーニュース個人」というコーナーで子どもの貧困に関する記事を配信するというプロジェクトだ。

どういうタイトルをつけるか。どういう言い回しを使うか。読者はどこで疑問を感じ、それに答える文章をどう織り込むか。写真、キャプション、見出し、掲載のタイミング…。

それなりに知られているとはいえ、まだまだ関心の高くない、ときに反発を招きもするテーマをどう伝え、いかに遠くにリーチするか。私にとっては、単なる意見表明を超えて、この数年間の成果を問う力試しの場となっている。

幸い、原稿は多くの方たちに読まれており、この間の成果は悪くない。

今後も当面は、この力を磨き続ける。

そして、切り捨ての嵐が吹き荒れる前に、力を蓄える。

それが私の生きる道。

湯浅 誠 Makoto Yuasa

社会活動家・法政大学現代福祉学部教授

1995年法学部卒業後、大学院法学政治学研究科に進み日本政治思想史を専門とする。社会活動に関わる中で大学院を中途退学。2008年末の年越し派遣村村長を経て、2009年から足掛け3年間内閣府参与に就任。内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長など。講演内容は貧困問題にとどまらず、地域活性化や男女共同参画、人権問題などに渡る。

「ミツバチのごとく、花を咲かせるのがライフワークです」

きっかけは恩師のひと言

「君ら東大生は何も知らない。とにかく現場に行きなさい。」最初のゼミで、川人博（かわひとひろし）先生（※）が言われたことが、10年以上経った今でも耳から離れない。

私が総務省を志望したのも、霞ヶ関だけでなく、地方自治体の現場でも働くというライフスタイルに惹かれたからだ。地域で活動する人はそのホームグラウンドでこそ輝く。総務省入省後は、毎週末、私費で全国の「地域の隠れたヒーロー」を訪ね歩いた。一方で、地域で活動する人は、地元やその業界しか知らないことが少なくない。ミツバチ．が花粉を運ぶように、僕が出会った全国の人や事例をつなげ、新しい花を咲かせたい。地域のミツバチ．がライフワークになった。

現場にこだわるあまり、法律や制度をつくる官庁組織の主流を歩まなかったと思うが、人と会うのが何より好きだし、人生かけてやりたいことを実現するため、現場での経験や人脈が必ず役に立つと信念をもって取り組んできた。

ユニークなネーミングと試み

急に追い風が吹いてきた。地方創生だ。気が付けば、有識者のほとんどは僕の仲間、僕自身もいろいろな政策を提案する機会をいただいた。官僚らを小さな市町村に派遣する地方創生人材支援制度もそのひとつだ。

昨年4月から同制度の第１号で鹿児島県長島町に派遣され、7月からは副町長を拝命した。長島町は世界一の鰤（ぶり）の町、売上高は年間100億円を超えるが、町内に高校や大学がないのが課題。高校入学時には、バスで通う、寮に入る、あるいは家族全体で引っ越すかということを余儀なくされ、他の地域と比べて追加的な子育て費用がかかる。若者の人口流出も続く。そこで実現したのが、「ぶり奨学金」である。出世魚かつ回遊魚の鰤にあやかり、「成長して戻ってきて」との願いを込めた。卒業後に町に戻ってきた場合には、元利相当額を基金から全額補填する。基金には、寿司屋から5千円、介護施設から5万円、漁協から鰤が１本売れると１円（＝今年度は約209万円）という具合に、町民や事業者が寄付をする。みんなで地域の子育てを支え合う仕組みだ。国で検討されている給付型奨学金は財源の見通しが立たないが、長島町のぶり奨学金ではその心配はいらない。モラルハザードも起きにくく、長く続きやすいのが特長だ。

また、東大の後輩等を招いて地元の生徒向けに、勉強のやり方や将来のキャリアデザインを伝える塾（＝獅子島の子落とし塾）を開催するほか、カドカワと連携して、通信制高校をサポートする拠点（＝長島大陸Nセンター）を役場内につくった。地元で高卒資格を取り、最先端を学ぶ機会と選択肢を提供していきたい。

新しい時代の働き方
―「公私一致」―

自分だけ、役場だけでは、ほとんど何もできない。相手に敬意を払い、いかに連携することができるか。これからのリーダーには、異質のものをマネジメントする能力が求められる。

田舎は課題最先端であるが、中と外をつなげてそれらを解決していくことで、日本の新しいモデルをつくっていきたい。日々、試行錯誤を繰り返している。

実は、長島町に赴任して以来、ほとんど休んでいない。でも、それが辛いとか、しんどいということでは全くない。むしろ、霞ヶ関で働いていた頃よりも、はるかに長く睡眠時間を取っている。副町長という立場は、常に高度な判断が求められる。意識して、睡眠や休養はしっかりとるようにしている。

肩の力を抜いて過ごしている時も、「これは、長島町で生かせそう」ということを頭のどこかで考えている。そういう意味で、ほとんど休んでいないといえる。それは、今の仕事が楽しくて、楽しくて仕方がないから。まさに、天職（calling）と受け止めている。

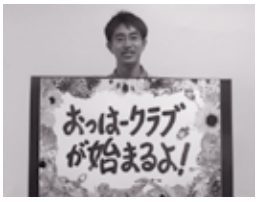
「私」が自然と「公」につながる「公私一致」という働き方は、労働と余暇を分離する近代の限界を乗り越え、新しい時代の働き方の指針になるのではないだろうか。「公私一致」という働き方では、「公」で求められていることと、「私」がやりたいこと、「私」ができることが一致し、大きな力が発揮される。楽しさと充実感の中で、ひとりひとりが力を発揮できる社会を作っていきたい。

私からのメッセージ

もちろん、日々の現場ではさまざまな葛藤があるが、そうしたときに支え、励ましてくれるのが大学の仲間だ。それぞれの分野で活躍する仲間から刺激を受けている。かっこいいと思う仲間から、ダサいとは思われたくない。

最後に、若い卒業生の皆さんへ。入学も就職もゴールではないということ。組織の中で安住するのではなく、組織の論理や社会の仕組みを理解した上で、自分がやりたいことを突き詰め、社会にどういう価値を提供できるか、仲間とともに社会の課題を解決できるかということに妥協せずに向き合ってほしい。それは、いずれ社会からも評価され、お金もついてくるものだと信じている。

※「法と社会と人権ゼミ」（通称：川人ゼミ）。現職の弁護士を講師とする、東大教養学部のゼミ。



井上貴至 Takashi Inoue
鹿児島県長島町副町長

2008年法学部卒業後、総務省に入省。地方創生人材支援制度を発案する。2015年4月、地方創生人材支援制度で鹿児島県の北西部の島、長島町の副町長となる。朝活「地域力おっはークラブ」を通して、地域活性化のミツバチ・伝道師としても活躍中。

「不確実性を楽しむことが生きがい」

野口英世にあこがれて

「セレンディピティ」という言葉があります。素敵な出会いや、予想外の出来事を発見して、幸せを引き寄せる力のことです。私の人生はまさにこのセレンディピティにあふれたものだと思っています。

小さい頃、あるデパートの展覧会で見た野口英世氏の人生にあこがれた私は、人の命を救う医師を目指し、医学部に入学しました。学生時代は、もちろん勉強もしましたが、友人たちと海外旅行をしたり、麻雀をしたりしたのも良い思い出です。卒業後は、第三内科教授でいらした矢崎義雄先生にお誘いいただき、同内科に入局いたしました。東大病院、三井記念病院の勤務を終えたのちに分子細胞生物学研究所にある堀越正美先生の研究室で博士課程を過ごしました。厳しい指導者のもとで基礎研究をできたことは幸せでした。その後は、循環器内科教授でいらした永井良三先生にご推薦をいただいて、宮内庁の侍医を拝命いたしました。

侍医からコンサル業に転身

侍医は東京帝国大学時代から本学出身の医師が拝命されることとなっています。4名の医師が交代で御所に控え、天皇皇后両陛下のご健康をお守りしております。私は両陛下に24時間お仕えさせていただく中で、両陛下のご活動をお近くで拝見するという光栄に浴しました。そして、両陛下の広く社会と国民を思う御心を間近にしたとき、自分も医師としてだけではなくより広い視点で医療に向き合いたいと考えるようになったのです。

そこで、侍医の任務を終えた後に、いずれは医療業界に戻ってくることは決めていながらも、本質的な課題解決方法を学ぶことができるマッキンゼーにて、戦略コンサルタントになりました。国際的な環境で、非常に優秀なメンバーとともに、あらゆることを本質的に突き詰める企業文化はとても刺激が多く、「これからの日本の本質的な課題とはなんだろうか、それを解決するには何をどうすれば良いだろか」と深く考え始めるきっかけとなりました。なお、バリューを出さなければいけない、という強迫的な観点も身につけました。

社会の課題と向き合う

さて、マッキンゼーを辞めた後にどのような形で医療界に戻るか悩み、研修医時代に第一内科でご指導いただいた黒川清先生にご相談に行きました。黒川先生はこれから「高齢者の孤独」が大きな社会的課題になると仰ったのです。では、自分としてどのようにこの問題に取り組めばよいだろうか。私は患者さんの人生の最期を支えることができる在宅医療に取り組むことにしたのです。そして、2010年に祐ホームクリニックを文京区千石に立ち上げました。現在は、国内に5カ所の診療所を構え、30名の医師と一緒に約1000名の患者さんに訪問診療を行っています。

東日本大震災と海外戦略

祐ホームクリニックの立ち上げ当初は紆余曲折ありましたが、1年程度で地域の患者さんを安定的に受け入れるようになりました。そんな時に、2011年の東日本大震災が起きたのです。東京の患者さんへの対応が落ち着いてきた2011年5月に、知り合いの医師に誘われ初めて宮城県石巻市に訪れ、震災の爪痕の深さに衝撃を受けました。震災後3ヶ月以上が経過しても、医療ベッドが不足しており、壊れた自宅にそのまま住んでいる人も数多くいたのです。その場で「ここで開業しなければならない」と決心し、石巻にも在宅診療所と在宅被災者の支援団体を立ち上げました。3年間の期間を経て、支援団体の活動は地域に引き継ぎましたが、現在でも祐ホームクリニック石巻は在宅診療を提供しています。

このような経験を通して、2015年には日本での在宅医療のノウハウを海外に向けても展開していきたいと考え、　当時通学していたINSEADのExecutive MBAクラス（※）のシンガポール人の同級生とホームケア事業を開始しました。シンガポールでも、今後急速に高齢化が進みます。日本式の在宅医療の良い仕組みを現地化することは簡単ではありませんが、シンガポール政府からも大きな支援をいただき少しずつ成功しています。

これまでの歩みを振り返ると、よく「行き当たりばったりじゃないか」とご指摘をいただくこともあります。私はそれこそまさに「セレンディピティ」だと考えています。目の前に現れる偶然の兆候を自ら掴むかどうかで人生は大きく変化します。しかしその一方で、セレンディピティを信じて偶然の兆候をつかむということは、大きな不確実性を生むものです。それは今後どうなるかわからない、という状態のまま前につき進むことでもあります。私はこの「不確実性を楽しむ」ことが生きがいなのです。これからの人生でまたいくつのセレンディピティと出会えるか楽しみにしています。

※INSEADは世界有数のビジネススクール。キャンパスはフランス、シンガポール、アブダビにわかれている。

武藤真祐　Shinsuke Muto
医療法人社団鉄祐会　祐ホームクリニック理事長

1996年医学部卒業。02年東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。東京大学医学部附属病院、三井記念病院にて循環器内科、救急医療に従事。04年より2年半、宮内庁で侍医を務める。コンサル業を経て、訪問診療専門の診療所を設立。

「誰かの幸せが、どこかにしわ寄せを生まない世の中に。」

15歳の夏

「君は、日本人の価値観を押しつけているだけじゃないか」

コロンビアから来た大男のホセは言った。15歳のときに参加した国際キャンプでのことだ。議長席にいた私は、なにも言葉を返せなかった。

ドイツで開催されたそのキャンプには、15歳の参加者が約10カ国から集まっていた。ルールづくりから日々のアクティビティの企画運営まで、参加者が主体的に行う。「みんなで最高のキャンプをつくろう！」と意気込んで参加したものの、キャンプは荒れた。昼から酒を飲んでいる人もいれば、夜に脱走して捕まり強制送還される者まで出た。それでも、運営は15歳の参加者たちに委ねられた。そんな状況でなぜだか議長に選任された私は、最初の会議で力を込めて言った。

「みんなで作ったルールなんだから、守ろうよ。せっかく集まったんだから、いいキャンプにしよう」

まっとうなことを言ったつもりだったが、場はしらけ、ブーイングが起きた。

「ここは学校でも職場でもない、夏休みに来たキャンプだ。リラックスこそ、いいことだろう」

「日本では、ルールを守り規則正しく生活していれば、いいキャンプになると思うのかもしれない。でも僕はそう思わない」

それでも曲げなかった私に、冒頭の通り、ホセが言ったのだ。

「君は、自分の価値観を押しつけている」

考え続ける

結局、最後までキャンプはまとまりなかったが、私は大切なことを学んだ。価値観は多様であり、自分が正しいと思うことが他者にとっても正しいこととは限らない。そして、誰かの価値観の押し付けでは、みんながハッピーにはなることはない。翌年の2001年9月11日、アメリカ同時多発テロ事件が起こる。それぞれが己の正義を信じる様に、小さなキャンプで学んだことと、大きな世界で起こっていることが、シンクロして見えた。

この苦い経験ゆえだろうか。高校生のころから、青臭く「みんなが幸せに暮らせるようになるには、どうすればいいのか」と考え続けた。誰かの幸せや正義のために、どこかにしわ寄せがいくような世の中はきっと続かない、と直感的に思った。

マッキンゼーからブータンへ

大学では経済学部に通いながら、バックパッカーで世界を旅し、NGOでボランティアをした。様々な現場を見るうちに、自分の足腰を鍛えないと、人の役にも立つことができないことに気づく。まずはビジネスを知ろうと、卒業後は経営コンサルティング会社のマッキンゼーに勤めた。

数年間マッキンゼーで修行をしたころ、ある話をいただいた。民主化したばかりのブータンで、初めての民選首相のもと産業育成をリードする若手を探しているというものだ。ブータンは経済的には貧しい国だが、GNH（国民総幸福）を指針に掲げ、人の幸せを一番に考えた国づくりをしようとしている。迷わず手を挙げブータンに渡った。民主化直後に首相のもとで、国の自立に向けて働くというのは、大変にやりがいのある仕事だった。

しかしそんな中、東日本大震災が起こる。ブータンでその報道を見て、ショックを受けた。ずっと「日本より大変な地域がある」と思ってきたが、初めて「日本が大変だ。日本人として、この課題にあたりたい」と思った。悩んだ末、ブータンで最初の任期を終えた2011年秋に帰国。以来、東北で仕事をしている。

震災後に起ち上げた編み物の会社

東北の被災地では、短期的な支援は多くあったものの、肝心な、被災した人々が再び自分の力で稼ぎ生活していくための助けは少なかった。そこで、一時的な支援が去った後も、地域で自立し持続する産業をつくろうと、気仙沼で手編みニットの会社を起ち上げた。「気仙沼ニッティング」という。港町の気仙沼では、漁網を補修したり漁師のセーターを編んだりと、編むことが身近だった。だが手編みのセーターを編むには50時間以上かかる。それでも成り立つ価格設定にするには、相当に高品質でハイブランドにする必要がある。毛糸の開発、商品デザイン、編むトレーニングなど、たくさんのプロの力を借りて妥協せず進めた。今では編み手は70人ほど。商品価格は7万～20万円だが、生産が追いつかないほど注文をいただく。

変わらぬもの

仕事で日々考えているのは「どうすれば、お客さんと働く人、両方をハッピーにできるか」ということだ。どちらかのことだけ考える方が簡単かもしれない。しかし、会社を経営しているからには、両方を幸せにできるような仕事をしたい。そうでないと、きっとどこかにしわ寄せを生む。

気づけば、高校生のころに考えていたこととつながっていた。仕事は思わぬご縁で拓けていくこともある。しかし、心根というものは、そうは変わらぬものかもしれない。

写真：操上和美

御手洗瑞子 Tamako Mitarai
気仙沼ニッティング代表

2008年経済学部卒業。外資系コンサルティング企業に勤務の後、ブータン政府の初代首相フェローとしてブータンの発展、観光の活性化に尽力する。東日本震災発生後、宮城県気仙沼市で手編みニットの会社を立ち上げる。オリジナルの毛糸から作られるニットは、クオリティが高いと人気。

同窓会だより

同窓会活動・設立レポート

01 東京銀杏会「留学生と交流する会」

15年前から東京大学に留学している学生に日本の社会、文化に親しみ、日本を好きになって帰国してもらうよう活動しています。都内および近郊の代表的な箇所を東京銀杏会の会員を中心とするボランティアと一緒に対話をしながら見学することを中心に行っています。4月新宿御苑の花見、5月浅草神社または神田神社の神輿見学、7月歌舞伎鑑賞、10月高尾山ハイキングまたは鎌倉、江の島等年間8回程度見学会を行っています。留学生の参加者は1回30名程度、ボランティアは20名程度となっています。継続して参加する留学生も多く、見学しながら留学生とボランティアの会話が弾んでいきます。特に人気のある見学箇所は皇居、高尾山ハイキング、神輿見学、歌舞伎鑑賞などです。中国を含め留学生にとって皇室に対する関心は強いようです。勇壮な神輿を伴う日本の祭りも楽しんでいます。見学会等の最後には全員一堂に会し簡単な懇親会を行い、交流を深めています。継続は力なりでこのような人と人との交わりを通しての活動はさらに重要となっています。[田中寿徳（59年法）]

人気の浅草観光。スカイツリーを背景に

02 運動会OB・OG会 情報交換ワークショップ開催

2月27日（土）、赤門運動会と東京大学校友会共催で、運動会各部のOB・OG会に向けた情報交換ワークショップを開催しました。30団体より32名の参加を得て、活発な情報交換が行われました。事前に行ったアンケートの集計結果をもとに、各OB・OG会運営の現状の共有を行い、共通する課題として、運動施設の老朽化対策と、それに向けた支援金集め、会員のシニア偏重／若手とシニアの二極化、会の運営リソースの確保などの点が挙げられました。事例共有として、「OB会の法人化運営」（ア式蹴球部）、「78％の年会費徴収率を実現する運営」（剣道部）、「東大基金の活用」（ホッケー部）、「留学生スキー講習会」（スキー部）の4テーマについて活動紹介、アメリカンフットボール部、スキー部からは、独自運営の奨学金制度が紹介されました。参加者からは「他のOB・OG会の様子を体系的に知り、様々な気付きが得られた」との反応を頂いています。[事務局記]

好評を得た事例共有

03 カンボジア・ネパール同窓会設立

8月6日（土）にプノンペンのカンボジア日本人材開発センター（CJCC）会議室において東京大学カンボジア同窓会が設立されました。設立にあたっては、津川貴久在カンボジア日本公使（87年教養）の多大なご支援をいただきました。設立総会およびレセプションでは、大矢好彦氏（08年工学系）ほか日本人、カンボジア人同窓生を含む約35名が集う中、神馬征峰教授（東京大学大学院医学系研究科・国際地域保健学教室）による総長メッセージ代読などが行われました。設立総会に先立ち、神馬教授をキーノートスピーカーに迎え“Sustainability Challenges in Cambodia: From Global Health Experiences”をテーマとする学術講演会も実施されました。一方、ネパールでは、7月18日（月）に同窓会キックオフミーティングが開催されました。日本人の出席者は在ネパール日本大使の小川正史氏（79年文）、東京大学公共政策大学院の西沢利郎教授で、残りの22名は全員ネパール人帰国留学生という国際色豊かな会合になりました。田中幸夫氏（04年農生）を中心に組織化が進んでいます。[事務局記]

東京大学カンボジア同窓会設立総会。プノンペンCJCC会議室にて

04 オランダ淡青会総会

7月10日（日）、アムステルダムの老舗レストラン「五匹の蝿」で年次総会を開催しました。今年の総会は女性の出席者数が男性を上回り、しかも女性は一人を除いて全員理系、全体でも理系出身者が文系出身者よりも多い会となりました。また、初めて現役の留学生も参加し、時代の流れを感じる総会でした。二ヶ月に一度ライデンで開催されている日本人留学生を中心とした勉強会「シーボルト会」と2009年から提携し、毎回多くのオランダ淡青会メンバーが発話者、あるいは参加者として協力しています。[小柳尚子氏（93年医）]

アムステルダムで有名な老舗レストラン「五匹の蝿」にて

05 体験活動プログラム2016

学生の休業期間を利用して学部学生にさまざまな体験の機会を提供する「体験活動プログラム」。今年、海外では韓国東京大学総同門会・ソウル東大会の「大学・企業・文化体験in韓国―韓国を知る、韓国から日本を見る―」、UAE赤門会は工学系研究科、新領域創成科学研究科と共同で、今年一番人気となった「アラブ首長国連邦の「いま」：沸騰都市ドバイ、未来都市マスダール、石油都市アブダビ」、さつき会アメリカ（NY有志）による「国連（NY）での会議に学生ボランティアとして参加」の3新規プログラム含む14件。国内では三四郎会や赤門市長会の自治体などの提案による13件が実施されます。[事務局記]

新規登録団体のご紹介

国際機関銀杏会
国際機関勤務者・勤務希望者の会／
会長　中澤 賢治さん（79年法）

理学部化学科昭和43年卒業クラス会
学科クラス会／幹事　吉田　隆さん（68年理）

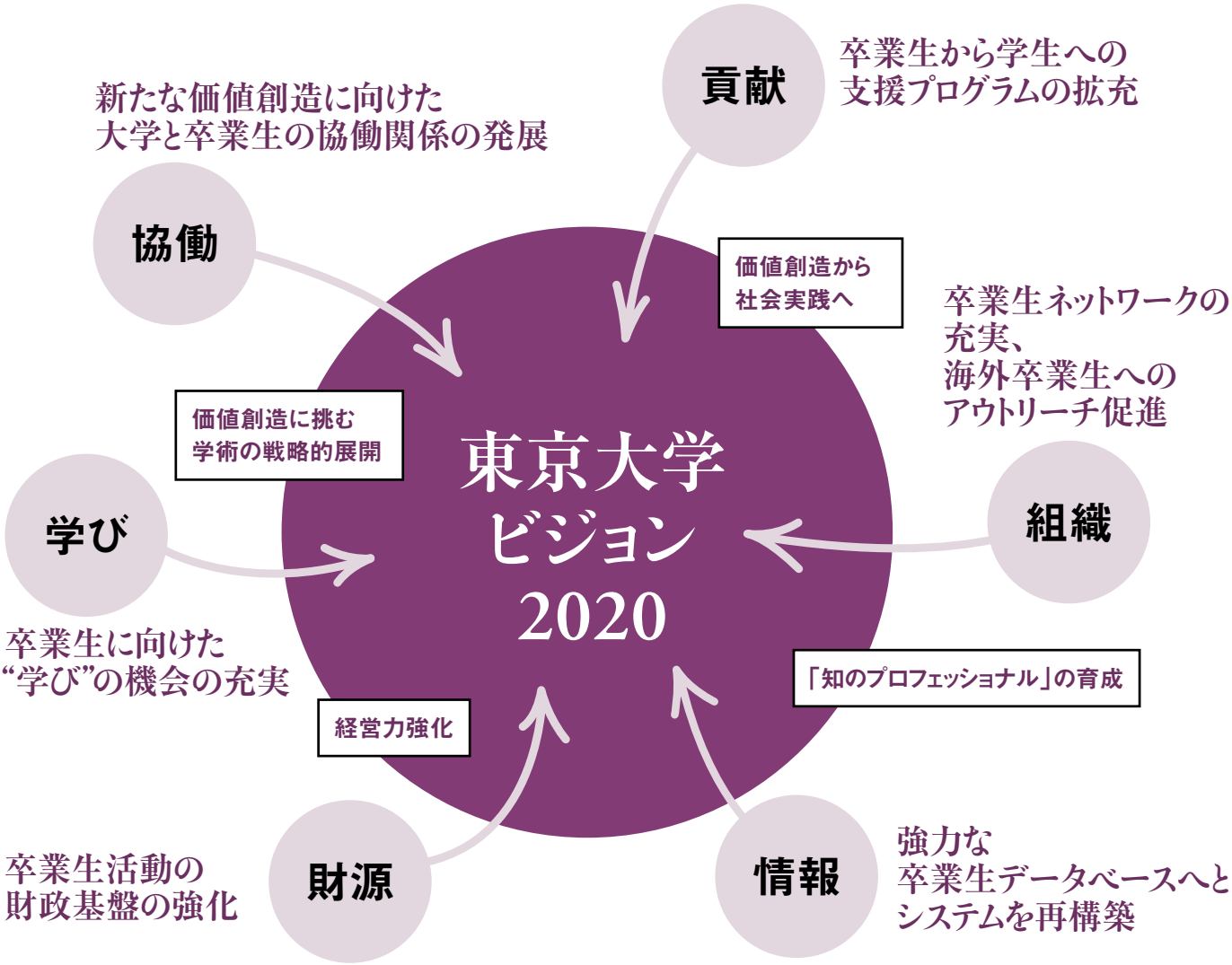
84LI・II6クラス会
駒場クラス会／幹事　藤崎　耕一さん（89年法）

東京大学カンボジア同窓会
カンボジア在住卒業生の会／
会長　Yi Siyanさん（10年医院）

登録団体数 287（2016年8月6日現在）

学部等同窓会	45
地域別同窓会	49
海外同窓会	48
運動会	29
文化サークル	16
職域特定分野同窓会	39
クラス会（専門課程同期会）	11
クラス会（駒場）	50

東京大学ビジョン 2020 &卒業生活動



昨年4月から始まった東京大学の新執行部体制のもと、10月に東京大学の中長期方針を示した「東京大学ビジョン2020」が公表されました。新たな価値創造に挑む「知のプロフェッショナル」の育成、卓越性と多様性の相互連環を通じた「知の協創の世界拠点」の構築などを基本理念としながら、〔研究〕〔教育〕〔社会連携〕〔運営〕の4領域それぞれにビジョンとアクションを据え、方向性を示しています。その中に、「卒業生や支援者のネットワークを充実させ、大学との連携・協力を強化する。」として、卒業生に関わるアクションが盛り込まれました。大学の全体方針を受け、東京大学卒業生室では、今後のアクションプランについての議論・検討を進めています。

掲載広告インデックス

学士会館 …… 11P
アークコミュニケーションズ …… 11P
帝国ホテル …… 13P
トヨタ …… 15P
JR東日本 …… 16P

編集発行／東京大学卒業生室
古谷 研（卒業生室長）
アートディレクション／細山田光宣
デザイン／河村織恵
表紙イラスト／門坂 流
印刷／図書印刷
発行／2016年9月9日

東京大学校友会事務局
〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
TEL:03-5841-1227
FAX:03-5841-1054
Email:utaa.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
URL： http://www.u-tokyo.ac.jp/index/alumni.html